

【原著論文】

大河ドラマの誘致

—映像作品と地域活性化—

北村 純

行政学研究室

The attraction of NHK historical drama

A view from the community revitalization

Jun KITAMURA

Public Administration

Abstract

This paper describes recent trends of the attraction of NHK historical drama (*Taiga dorama*). As one of the community revitalization actions, thirty-some local associations and organizations always make appeals to dramatize their local historical character(s) to the NHK's *Taiga dorama*. The article presents the overview of these situations and introduces two short cases, the historical dramas featuring Japanese local feudal warlords, *Naoe Kanetsugu* and *Kuroda Kanbē*.

キーワード：大河ドラマ，誘致，地域活性化，映像作品

1. はじめに

『歴史研究』誌（全国歴史研究会）によれば，2015年6月現在，NHK大河ドラマの誘致活動は26を数えるという¹。NHK大河ドラマは1963年〈花の生涯〉から2015年放映中〈花燃ゆ〉まで54作品が制作され，更に2016年〈真田丸〉，2017年〈おんな城主 直虎〉の2作品の放映が予定されている。近年地域活性化と大河ドラマの誘致活動を結びつける動きが顕著となり，地域の民間有志・自治体さまざまな主体による地域内外へアピールが繰り返されるようになった。

背景として，フィルム・ツーリズムに対する地域の期待があり，映像作品の誘致が地域活性化の1つの手段と捉えられる風潮が考えられる。映像作品の地域への影響に関して，フィルム・ツーリズムにしても，地域活性化との関連性にしても，従来から知られてきた事実である。

近年の誘致活動の特徴は，緩やかなつながりで組織化された誘致というべき活動が各地で進められ，

自治体の立ち位置は様々だが、民間の動きと連動してまとめ役になる例が少ないことである。

大河ドラマを事例としてとりあげる理由は、NHK が培ってきた映像コンテンツとしての信頼性に依拠して、地域の誘致活動が目に見えるかたちで展開されていることがあげられる。1年間・1回45分・全49回～50回に及ぶ大型時代劇であり、NHKの看板番組の1つとして親しまれてきたコンテンツが取り上げる人物と地域は、地域と地域住民にとって大きな意味を持つ。各地の誘致活動が成功するかどうかは別として、誘致活動の試行を妨げる要因は少ない。

本稿は大河ドラマの誘致をめぐる近年の地域の動きについて概観と事例紹介を試みる。文献資料で確認できる範囲で、誘致活動の興隆、経済効果への期待、地域社会に対する影響、NHKの採択方針、事例として、〈天地人〉、〈軍師官兵衛〉について取り上げ、今後の研究展開のために暫定的な考察を行いたい²。

2. 誘致活動の概観

本稿では大河ドラマの誘致という場合、歴史上の人物（一族等）あるいは作品の採択という観点で整理する。大河ドラマ等のロケ地の誘致については別に論じなければならないと考える。

誘致活動の現状について概観するためには、新聞記事を拾うしかない状況である。誘致活動の密度や頻度を概観する客観データは現時点ではほとんどない。「NHK 広報部によると、『大河に取り上げて』と要望がある歴史人物は30人ほど」³（朝日新聞 2012年3月26日夕刊）という記事があり、データとしては少し古くなっているが目安となる。冒頭で述べたように、『歴史研究』（歴史研究会、2015年6月号）が特集「大河ドラマの虚と実」を組み、〈特集付録〉として「全国の大河ドラマの誘致活動」という記事を掲載している。ここでは26人（件）の歴史人物をめぐる誘致活動が示されている（表1）。また、『歴史読本』（新人物往来社、中経出版、KADOKAWA）が「【誘致活動】大河ドラマを我が町へ」という記事を2013年1月から2015年2月まで全26回連載している（表2）。26人（件）の歴史人物があげられているが、『歴史研究』のリストと2人（件）ほど異なっている。新聞記事の検索をすると、この2誌のリスト以外でも新たに歴史人物等が提案されており、リストは年月とともに少しずつ更新される状況にある（表3）。以上、総合すると本稿を執筆している2015年8月の時点で30人（件）余りの歴史人物をめぐる誘致活動が各地で進められているとみることができる。

活動主体はほとんどの場合、ホームページを持つか、ブログ、フェイスブックなどSNSを通して情報発信をしている。インターネットで提供されている情報から見限り、誘致活動は民間有志、地方議会議員、首長など様々な主体から提唱され、活動のスタイル・経緯・経過も多様である⁴。歴史上の人物・一族等の活動範囲が広がれば広いほど、広域にわたって「ゆかりの地」が存在し、中心人物以外の周辺的な登場人物との関係性も広がる。中心人物を個人だけでなく複数（男女、夫婦、一族、地縁血縁の近い人々等）あげてアピールする主体もある。

NHK 広報部は「採否を分けるのは1年間の放送に堪えるエピソードがあるか、その人生に現代と共通するテーマがあるか、の2点」として、「地元の声も参考意見にさせてもら」うと述べている（朝日

新聞前掲記事)。自治体の位置づけは官民の窓口あるいは結び目になっていることが推察されるが、広域にわたって誘致活動が展開している場合、各自治体を中心に官民が緩やかに連携するネットワーク組織となっていることが多い。

地域の誘致活動が実るかたちで大河ドラマの歴史人物に採択されたと考えられるケースは、2001年以降の作品を数えると、2002年〈利家とまつ〉、2009年〈天地人〉、2011年〈江〜姫たちの戦国〜〉、2014年〈軍師官兵衛〉、2016年〈真田丸〉の5作品と思われる(表4)。21世紀に入ってから(2001年以降)の大河ドラマは〈北条時宗〉から〈おんな城主 直虎〉まで全17作品であり、誘致活動とNHKの決定がほぼ一致した例は3割にわずかだが届かない。17作品のなかには、2015年放映中〈花燃ゆ〉や2017年〈おんな城主 直虎〉のように、地域の組織的な誘致活動がみられなかったとされる例も含まれている。

表1 『歴史研究』で紹介された大河ドラマの誘致活動

歴史上の人物・一族等	主体(事務局, 協議会等)	事務局等所在地	誘致開始年月
明智光秀ほか(細川ガラシャ, 細川幽斎, 細川忠興)	明智光秀公顕彰会事務局	滋賀県大津市 (総本山西教寺)	
	明智光秀公ゆかりの地連絡協議会		設立2007年8月
	NHK大河ドラマ誘致推進協議会	京都府長岡京市(長岡京市政策推進課)	準備会2010年11月 設立総会2011年4月
北条五代	北条五代観光推進協議会事務局	神奈川県小田原市 (小田原市役所観光課)	北条五代観光推進宣言 2011年9月 北条五代大河ドラマ化推進宣言 2013年5月
義仲と巴	津幡町大河ドラマ推進協議会	石川県河北郡津幡町 (津幡町役場産業建設部交流経済課)	(2009年度設立)
	「義仲・巴」広域連携推進会議	富山県小矢部市	2009年8月
本多忠勝・忠朝	NHK大河ドラマ「本多忠勝・忠朝」誘致実行委員会	千葉県夷隅郡大多喜町	2009年8月
加藤清正	加藤清正公生誕450年・没後400年記念事業実行委員会	熊本県熊本市	2009年2月

	『加藤清正公』ゆかりの地四 地域連絡協議会	熊本県熊本市 (加藤清正の大河ドラマを 実現する県民の会)	2014年9月
	加藤清正公を大河ドラマに 愛知	愛知県名古屋市	2015年4月
藤堂高虎	NHK大河ドラマ「藤堂高虎」 を誘致する会	三重県津市	2001年
保科正之	名君保科正之公の大河ドラ マをつくる会	長野県伊那市 (伊那市役所商工観光部観 光課)	2004年6月
水戸光圀	『光圀伝』大河ドラマ推進協 議会	茨城県水戸市 (水戸市商工会議所)	2013年5月
島津義弘	島津義弘公大河ドラマ化推 進実行委員会	鹿児島県始良市	2013年4月
ジョン万次郎	ジョン万次郎 NHK大河ドラ マ化実現高知県実行委員会	高知県土佐清水市 (土佐清水市商工会議所)	2012年12月
戦国大名里見氏	里見氏大河ドラマ実行委員 会	千葉県館山市	2010年8月
大友宗麟	NPO 法人大友氏顕彰会 NHK大河ドラマ「大友宗麟」 誘致推進協議会	大分県大分市	NPO法人設立2011年4月 誘致推進協議会設立2013年 1月
鹿児島を舞台とした大 河ドラマ	鹿児島県観光誘致促進協議 会	鹿児島県鹿児島市	——
伊能忠敬	伊能忠敬大河ドラマ化推進 協議会	千葉県館山市	2011年8月
徳川宗春	NPO 法人宗春ロマン隊事務 局「尾張七代藩主 徳川宗春 公を NHK大河ドラマに誘致 する会」	愛知県名古屋市	NPO法人設立2011年7月 誘致する会(決起集会)2012 年2月
山中鹿介	安来市役所 広瀬地域センタ ー『山中鹿介の大河ドラマ放 映実現をめざす会』事務局	島根県安来市	2009年

眞田幸村	NHK 大河ドラマ「日本一の兵 眞田幸村公」放映実現を願う会事務局	長野県上田市 (上田市役所 丸子地域自治センター)	2009年11月
塚原卜伝	「塚原卜伝研究委員会」事務局	茨城県鹿嶋市 (鹿嶋市観光協会)	2007年5月
三好長慶	三好長慶会 大河ドラマを実現する会	徳島県徳島市	大河ドラマを実現する会設立 2001年11月
長曾我部一族	長曾我部最高委員会	千葉県柏市	2007年9月
雑賀孫市	孫市の会	和歌山県和歌山市	2006年1月
朝倉五代	朝倉氏遺跡保存会	福井県福井市	大河ドラマ誘致署名開始 2010年8月
立花闇千代(ぎんちよ)	柳川フィルムコミッション事務局	福岡県柳川市 (柳川市役所観光課)	——
二宮敬作	ケイサキーの会	愛媛県西予市	2011年11月
山田方谷	方谷さんを広める会	岡山県高梁市 (高梁市役所秘書政策課)	2012年4月
比企一族		埼玉県東松山市 (比企総合研究センター)	篠綾子『武蔵野燃ゆ』(小説) 刊行 2014年11月

出典：歴史研究，第632号，2015年6月号，36-39. より作成. 誘致開始年月の欄のデータは各誘致主体のHPなどから補足した. また斜体部分は「歴史研究」誌に記載はないが，共通する歴史人物等の各誘致主体のHPなどから補足した.

表2 『歴史読本』連載「大河ドラマを我が町へ」で取り上げられた誘致活動

	歴史人物・一族等	掲載号		歴史人物・一族等	掲載号
1	明智光秀	2013年1月	14	薩摩藩英国留学生	2014年2月
2	北条五代	2013年2月	15	伊能忠敬	2014年3月
3	義仲と巴	2013年3月	16	徳川宗春	2014年4月
4	本多忠勝・忠朝	2013年4月	17	山中鹿介	2014年5月
5	加藤清正	2013年5月	18	眞田幸村	2014年6月
6	藤堂高虎	2013年6月	19	塚原卜伝	2014年7月
7	保科正之	2013年7月	20	三好長慶	2014年8月
8	水戸光圀	2013年8月	21	長宗我部一族	2014年9月
9	島津義弘	2013年9月	22	雑賀孫一	2014年10月
10	ジョン万次郎	2013年10月	23	朝倉五代	2014年11月

11	大友宗麟	2013年11月	24	立花闇千代	2014年12月
12	戦国大名里見氏	2013年12月	25	二宮敬作	2015年1月
13	三浦按針	2014年1月	26	山田方谷	2015年2月

出典：「歴史読本」（新人物往来社，中経出版，KADOKAWA）2013年1月～2015年2月より作成。

表3 表1で紹介されていない，その他の大河ドラマの誘致活動

歴史上の人物・一族等	主体（事務局，協議会等）	事務局等所在地	誘致開始年月
三浦按針（ウィリアム・アダムズ）	ANJINプロジェクト	神奈川県横須賀市など	2013年4月
薩摩藩英国留学生	（鹿児島県知事の発言）	——	——
太田道灌	太田道灌公を大河ドラマに！推進準備 実行委員会	神奈川県伊勢原市	2014年7月
村橋久成	NHK大河ドラマ『北で燃えたサムライ 村橋久成』を誘致する会	北海道札幌市	2015年5月
由利公正	（福井県知事の発言） 誘致推進協議会設立（予定）	福井県	2015年夏（予定）

出典：各誘致主体HP，朝日新聞記事などから作成。

表4 誘致活動の成功例

歴史上の人物・一族等	主体（事務局，協議会等）	事務局等所在地	誘致開始年月	放映
利家とまつ	NHK大河ドラマ『加賀藩前田家』 誘致推進委員会（石川県）	石川県	1998年6月	2002年
天地人	NHK大河ドラマに直江兼続公を取り 上げてもらう会（新潟県六日町 市） 直江兼続公をNHK大河ドラマに推 進する会（山形県米沢市） その後，新潟県上越市，福島県会津 若松市などに同種の会が発足。	新潟県六日町市 山形県米沢市 新潟県上越市 福島県会津若松市	1996年 1997年 2002年 2004年	2009年
江～姫たちの戦国～ ⁵	——	滋賀県長浜市など	——	2011年
軍師官兵衛	播磨の黒田武士顕彰会「NHK大河 ドラマ『黒田官兵衛』を誘致する会」	兵庫県姫路市など	顕彰会設立2006年 3月／誘致する会設 立2008年11月	2014年

真田丸	NHK 大河ドラマ「日本一の兵 真田幸村公」放映実現を願う会事務局	長野県上田市など	2009年11月	2016年
-----	-----------------------------------	----------	----------	-------

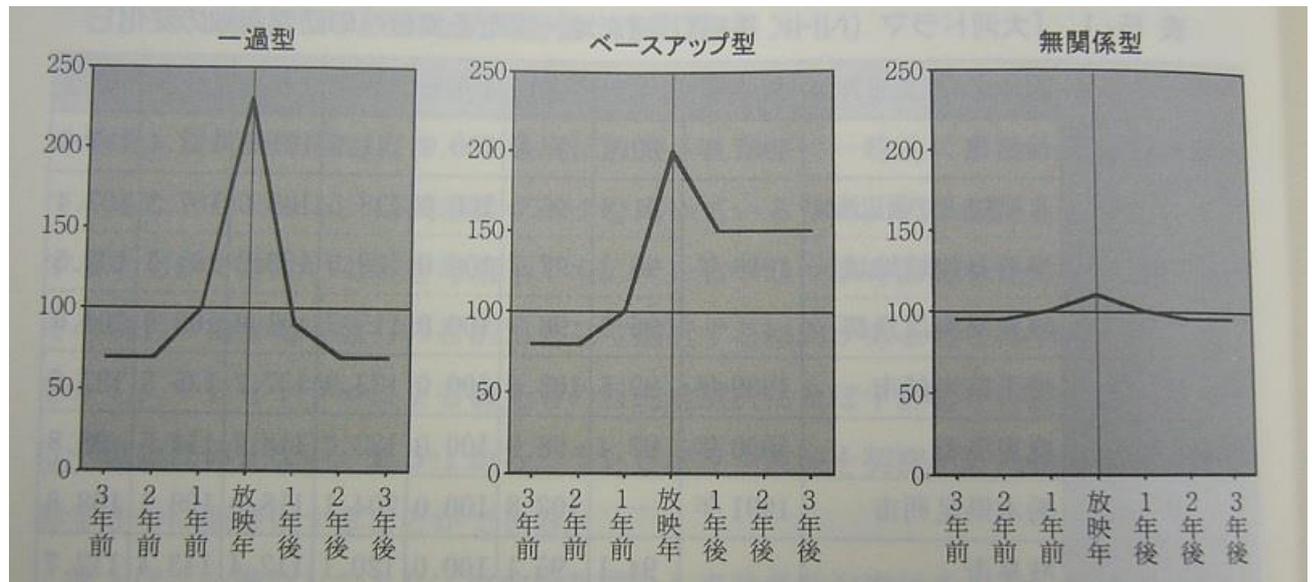
出典：鈴木嘉一 2011（利家とまつ），本稿第3節（天地人），毎日新聞記事（江），誘致する会 HP（軍師官兵衛），願う会 HP（真田丸）などから筆者作成。

誘致開始時期を見ると、2002年〈利家とまつ〉の石川県における誘致活動が1998年開始と知られていることなどから、各地の誘致活動活発化の発端は1990年代後半以降と考えられる。指摘されるのは大河ドラマの制作方針の変化である。2000年代に入り、NHKは大河ドラマのあり方に関して、1990年代半ばからの視聴率低落傾向に歯止めをかけるべく、魅力ある人物像を新しい視点で描き、視聴者層を従来大河ドラマを好む男性層だけでなく「女性と若者」にも広げることを目指すようになる。大河ドラマの主人公についても、いわゆる歴史上の勝者や歴史の表舞台で脚光を浴びてきた人物だけでなく、従来脇役とされてきた地方の有力な人物やその人物を支えていた女性たちなども有力候補としてあげようになってきた⁶。これによって、地域の歴史人物をドラマの中心人物にする可能性が生まれ、各地で大河ドラマ誘致活動が活発化した⁷。また、〈利家とまつ〉や〈天地人〉のように、地域の誘致活動が成功した事例が報道などで伝えられるようになると、各地で成功の可能性を求めて次々と誘致活動のための組織を立ち上げる状況が生まれてきた。

バブル経済崩壊後の日本の地域社会が経済・社会面で不調に陥ったことで、「文化的公共事業」（鈴木嘉一氏）としての大河ドラマの誘致に、地域の各主体からの期待が向けられるようになった。とくに誘致活動の有無にかかわらず、大河ドラマの経済効果・社会効果は地域にとって「特需」として機能することが広く知られ注目されている⁸。

大河ドラマの文化的公共事業としての側面について様々な要素があるが、まず第1に、地域への観光客の増加がある。映像作品と観光客の入込数の関係に関して、図1のような3類型が指摘されている。映像作品放映後に観光地としての定評を確立し、放映以前よりも観光客が増加した状態で安定するベースアップ型の影響の例は少ない。作品がヒットした場合でも一過型の影響をとることが多いと言われている。無関係型は、作品に魅力がなく観光客の入込数に影響が生じない場合、または地域がもともと観光地として定評があり映像作品の影響をほとんど受けない場合である。大河ドラマの効果が「特需」的と評されたり起爆剤と言えられたりするの、こうした傾向に基づいている。ただし、他の映像作品に比べて大河ドラマの影響は短期的であれ非常に大きい⁹。

図1 テレビドラマ放映を契機とした訪問者数への影響の3類型



出典：前田勇『21世紀の観光学—展望と課題—』学文社，2003年，96頁。縦軸は訪問客（観光客）入込数の動向（ドラマ放映開始前年の訪問者数を100とした指数），横軸はドラマ放映年（縦の中心線）の前後3年を示す。

文化的公共事業の第2の側面は、従来からの地域の観光資源が利用されるだけでなく、人工的に集客の拠点がつくられ、ツーリズムが演出されることである。たとえば、1987年（独眼竜政宗）以来、官民一体で——ご当地の自治体が設置し、NHKの関連会社NHKエンタープライズが展示を委託される——大河ドラマ展示館がご当地につくられるようになった。大河ドラマの展示館は集客の拠点となり、大河ドラマのゆかりの地を舞台にして期間限定で新たな書き割りを提供する。また、大河ドラマの出演者、ゆかりの芸能人たちが舞台となる地域のイベントに参加し人々の交流と集客を促進する。マスコミの話題となるだけでなく、イベントに参加する一般の市民の気分を盛り上げる仕掛けとなっている¹⁰。

文化的公共事業の第3の側面は、大河ドラマビジネスの利益が地域に大きく流れ込む仕組みである（表5）。たとえば、大河ドラマ放映に伴う関連グッズ・土産物の売り上げがある。「NHKエンタープライズは番組のタイトルロゴを菓子や酒類、Tシャツなどの商品に使用する際の窓口でもある。毎年、大河ドラマの内容が発表されると、同社は地元の商工会議所で説明会を開き、使用上の手続きやロイヤリティーなどについて説明する。」¹¹ 大河ドラマのご当地が出身地だけでなく活動の地が複数あれば、それぞれの地域で各種の商品化が進められ、関連グッズは多数になると1作品で200~400点近くなるということである。さらに最近では、放映に合わせて自治体やご当地の観光協会などがご当地の歴史人物等と関連するゆるキャラを企画し、大河ドラマ観光のアイコンになるだけでなく、地域の業者がキャラクター商品を展開するというケースもある。大河ドラマそのものの人気大きい場合、文化的公共事業が産み出す利益の配当は更に大きなものになると言われている。

表5 大河ドラマの経済波及効果の例

放送年	作品	主な舞台（県）	経済波及効果（事前予測）
2002	利家とまつ～加賀百万石物語～	石川県	786億円
2003	武蔵 MUSASHI	山口県, 福岡県	148億円
2004	新選組！	京都府	203億円
2005	義経	山口県	179億円
2006	功名が辻	高知県	135億円
2007	風林火山	長野県	109億円
2008	篤姫	鹿児島県	296億円
2009	天地人	新潟県	204億円
2010	龍馬伝	長崎県, 高知県	234億円(*)
2011	江～姫たちの戦国～	福井県	162億円
2012	平清盛	広島県	202億円
2013	八重の桜	福島県	113億円

出典：筒井隆志(2013), 14. および日銀各支店の試算より作成。(*)高知県当初分のみ。経済波及効果は事前予測の数字。

大河ドラマの誘致が文化的公共事業の特需として短期的な性格を持つことは明らかだが、これは任期4年の自治体首長・地方議会議員の行動様式と親和性がある。地方議会では大河ドラマ誘致の議員連盟が官民の誘致活動に先駆けて（あるいは併行して）つくられることがある。最近では、首長がトップダウンで大河ドラマの誘致を宣言するケースも出てきた。大河ドラマの誘致の中心的団体の事務局が役所の観光行政の部署に置かれる場合だけでなく、首長に近い総務系の部署に置かれている例もある。

誘致活動の組織や複数のご当地の連携はどうなるか。誘致活動が辿ってきた経緯によって、同じ歴史人物に関して誘致組織の重複が見られる場合がある。ご当地が複数となり、近隣地域・遠隔地域合わせて複数の自治体・関連団体が誘致のために連携しなければならないとき、首長その他の頂上会議と実務者レベルの調整会議で連携の方向性を模索する場合があり、組織目標・活動目標を明示し規約を作成し連携の組織化を図って活動組織の運営を行う場合がある。民間有志中心の活動となっている場合もあり、自治体がまとめ役となっている場合もある。タイトな組織化をすれば必ず誘致が実るかという、上述のように、映像作品をめぐる決定だけに必ずしもそうとは言えないようである。映像作品の誘致に関して、実際には抵抗や反対は少ないため、利害関心を持つ諸主体の相乗りがしやすいagendaであり、政治家・官僚にとって実現の確率は必ずしも高くないが、実現した時の利得が非常に大きい活動と考えられるのである。変化をつくり出すのに、権限や財政といったせめぎ合いのある

ハードルの高い行政資源をほとんど操作せずに済む。情報資源の操作こそが誘致活動の核となるからである。

以下 2009 年〈天地人〉と 2014 年〈軍師官兵衛〉の事例を振り返る。

3. [事例 1] 天地人¹²

直江兼続を主人公にした大河ドラマの誘致は民間有志の活動から始まり、上杉家と直江兼続のゆかりの地となる新潟、山形、福島 の 3 県へ活動が拡大した。最初の動きが 1996 年、大河ドラマの決定が 2007 年であり、10 年余りの長い誘致活動を行ったことになる。1996 年 7 月、新潟県六日町（現南魚沼市）において「NHK 大河ドラマに直江兼続公を取り上げてもらう会」が発足した。同年 5 月の米沢の代議士・近藤鉄雄（自民党）夫妻と郷土史家・井形朝良の来訪と呼びかけに六日町が応えたものであるという。山形県米沢市においては、1996 年 10 月、米沢直江会総会で「直江兼続公を NHK 大河ドラマに推進する会」設立の決議があり、1997 年 9 月、米沢における「推進する会」が設立された。この間、六日町では、1997 年 1 月、米沢における動きに合わせて「取り上げてもらう会」の名称を「推進する会」と統一している。「推進する会」は民間有志中心のグループだったため、新潟・山形両県知事に名誉顧問を委嘱し、参与として関係市町村の首長・議会議長、県会議員とすることで、官民の緩やかな協力体制を作り上げた。「推進する会」は 1999 年から 2002 年にかけて新潟県与坂町、上越市へ連携を広げ、2004 年 4 月には福島県津若松市に「推進する会」が設立され、活動に加わった。

「推進する会」は直江兼続を大河ドラマの中心人物と位置づけるにあたり、新潟においては、上杉家の重臣として戦国の世を生きた希有の武将であったこと、山形においては、まちづくりや産業振興によって城下町米沢の基礎を築いた人物であるとしていた。「推進する会」（米沢市、六日町、与坂町）は海老沢勝二 NHK 会長（当時）宛てに要望書を提出し、「推進する会」の組織体制が整備されてくると、各市町村の行政・関係機関を訪問し、協力を依頼、大河ドラマ誘致活動への理解をアピールした。

地域住民の反応は、直江兼続の知名度の低さから当初芳しくなかった。小学生向けの副読本「六日町が生んだ二人の英雄」を配布するなどして、地域住民向けの広報に力を入れた。NHK に対しては新潟・山形の両放送局には数回要望書を提出し、NHK 本部には 2000 年以降 2004 年まで 5 回ほど陳情している。「推進する会」は地域における活動の記録や関連資料を NHK 本部宛てで送付し続けた。NHK からは良い返事はもらえなかったが、NHK 本部陳情（2003 年、第 3 回目の陳情）の際の NHK 側の反応の変化から実現可能性を感じたという。

直江兼続の大河ドラマの歴史人物にするにあたって、NHK から指摘されたのは、有力な原作がないことであった。「推進する会」のメンバーは、新潟出身の作家・火坂雅志氏が講演会で直江兼続を主人公にした時代小説を書きたいという感想を述べたという内容の記事（新潟日報 2000 年 3 月 25 日）を見つけると、火坂氏に原作執筆を依頼し、新潟日報に連載を働きかけた。地方紙 13 紙で連載が始まったのは、信濃毎日新聞で 2003 年 10 月から、福島民報で 2003 年 11 月から、新潟日報で 2004 年 1 月から、山形新聞で 2004 年 4 月からであった¹³。

2006年「推進する会」は「3県共同NHK大河ドラマ誘致委員会」に発展的解消し、同年9月には火坂雅志『天地人』（上下2巻）は日本放送出版協会から刊行された。民間有志から始まった誘致運動は行政を巻き込むかたちで漸進し、大河ドラマ放映を想定した原作を作家に執筆してもらうところまで展開したのである。

2007年4月、2009年大河ドラマ〈天地人〉が決定した。2004年10月の新潟中越地震、ドラマ決定後の2007年10月の新潟中越沖地震の発生、2つの地震からの復興は、新潟を中心とする地域にとって、地域再生・地域活性化の課題として受け止められたようである。2007年〈風林火山〉と2009年〈天地人〉は新潟の観光振興を支える側面があったと思われる。

表6 2009年大河ドラマ〈天地人〉決定まで：誘致の経緯

年月	出来事
1996年7月	◎「NHK大河ドラマに直江兼続公を取り上げてもらう会」（新潟県六日町、現南魚沼市）設立
1997年	◎「直江兼続公をNHK大河ドラマに推進する会」（新潟県六日町 [1月]、山形県米沢市 [9月]）設立。→NHK山形放送局を訪問。NHK大河ドラマへの採択要望書を提出。
1998年1月	◎「推進する会」（新潟・山形）、上越市、与坂町を訪問し誘致活動への参加を要請
1999年3月	◎「推進する会」（新潟・山形）、NHK新潟放送局へ要望書を提出。
1999年9月	◎新潟県与坂町で「推進する会」設立。
2001年1月	◎米沢、六日町、与坂町共同制作の冊子「直江兼続」を全戸配布。
2002年	◎新潟県上越市で「推進する会」設立。
2004年4月	◎福島県会津若松市で「推進する会」設立。
2004年4月	◎新潟日報に火坂雅志「天地人」連載開始（2004年1月～2005年4月）→山形新聞、福島民報、信濃毎日新聞など13紙で連載。
2004年10月	新潟中越地震
2006年	◎◎「推進する会」を発展的に解消、「3県共同NHK大河ドラマ誘致委員会」とする。
2006年9月	火坂雅志「天地人」日本放送出版協会刊行
2007年	大河ドラマ〈風林火山〉放映。
2007年4月	2009年大河ドラマ〈天地人〉が決定
2007年7月	新潟中越沖地震

出典：魚沼、魚沼文化、新潟日報などの記事より作成。◎：民間有志主体、○：行政主導、◎◎：官民協働

4. 【事例2】軍師官兵衛¹⁴

黒田官兵衛を主人公にした大河ドラマの誘致は、新聞記事を辿ると、姫路市長の提唱が可視的な起動点になっているようである。2007年、第二回ひめじ未来トークにおける市長と市民の対話のなかで、

市長が市政の柱の1つとして「黒田官兵衛を主人公にしたNHK大河ドラマをぜひ実現したい」と述べている。2008年8月、戦国武将黒田官兵衛ゆかりの5市町が姫路に集い、サミットが開催されている。播磨の黒田武士顕彰会（2006年発足）など民間有志、姫路市、福岡市、滋賀県木之本町など10市町29団体で構成される「NHK大河ドラマ「黒田官兵衛」を誘致する会」設立は2008年11月である。2009年1月、「誘致する会」はNHK放送センターにおいて要望書を手渡している。民間有志からなる播磨の黒田武士顕彰会は2009年8月の「姫路お城まつり」甲冑武者姿のパレードを演出、官民でゆかりの地となる福岡県と大分県へ誘致の働きかけを行っている。2000年代末になると、各地の誘致活動はマスコットキャラクターの作成と普及などドラマが決定する前から仕掛けていることがわかる。

2010年1月にはドラマ化に関して再度要望書をNHK放送センターにて姫路市長ほか「誘致する会」から提出している。2012年1月には再び要望書をNHKへ提出、この間、姫路市などご当地各地は黒田官兵衛ブームというべき、まちぐるみの運動が展開されていたことは神戸新聞の記事等からうかがえる。2012年10月、2014年大河ドラマ〈軍師官兵衛〉が決定した。

軍師官兵衛は司馬遼太郎作品ほか、戦国武将を描く時代小説で脇役として度々描かれてきた人物であること、市長が初手を取り、官民の連携、ゆかりの地との誘致活動との緩やかな連携を図りながら、誘致活動は続けられた。たびたび要望書をNHK本部で手渡していることは、他の誘致主体も試みていることだが、「誘致する会」設立から放送決定まで4年ほどで実現している。

表7 2014年大河ドラマ〈軍師官兵衛〉決定まで：誘致の経緯

年月	出来事
2007年8月	○第二回ひめじ未来トーク（市長と市民の対話）－石見利勝市長「黒田官兵衛を主人公にしたNHK大河ドラマをぜひ実現したい」
2008年8月	○戦国武将黒田官兵衛ゆかりの5市町が姫路でサミット
2008年11月	◎○NHK大河ドラマ「黒田官兵衛」を誘致する会設立（播磨の黒田武士顕彰会など10市町29団体、姫路市、福岡市、滋賀県木之本町など）
2009年1月	◎○NHK大河ドラマ「黒田官兵衛」を誘致する会（会長＝石見利勝姫路市長）、NHK放送センター（東京都）を訪れ、福地茂雄会長にドラマ化を求める要望書を手渡す
2009年8月	◎「姫路お城まつり」甲冑武者姿でパレード（播磨の黒田武士顕彰会ほか）－姫路お城まつりに14万人 黒田二十四騎堂々練り歩き
2009年9月	○（福岡県）「黒田官兵衛」題材 大河ドラマ誘致 福岡で連携訴え（姫路市観光宣伝隊）
2009年10月	◎（大分県）豊前国中津黒田武士顕彰会（小野真六会長、大分県中津市、2005年10月発足）のマスコットキャラクター「あ！官兵衛（あっかんべー）」着ぐるみ披露。「ゆるキャラまつり in 彦根〜キグるミさみっと2009」（滋賀県彦根市）でデビュー
2010年1月	◎○黒田官兵衛のドラマ化要望 姫路市長らNHK訪問

2010年7月	◎○播磨出身の戦国武将 官兵衛の魅力探る 姫路市でシンポ (300人が参加)
2012年1月	◎○戦国武将・黒田官兵衛の大河ドラマ実現を目指す「誘致する会」メンバーら7人がNHK放送センター (東京都渋谷区) を訪問し要望書を手渡す
2012年10月	2014年大河ドラマに軍師官兵衛が決定

出典：神戸新聞，大分合同新聞，西日本新聞各記事より作成．◎：民間有志主体，○：行政主導，◎○：官民協働

5. 議論と暫定的考察

大河ドラマの誘致活動について概観し2つの事例をみてきたが，社会情報学的な小括をもって暫定的考察としたい．ここでは，(1)誘致活動と地域活性化の関係，(2)誘致活動と映像作品 (コンテンツ) の関係，(3)誘致活動における民衆感情の動員，の3つの論点をとりあげる．この上で，大河ドラマの誘致活動から垣間見える“地域における熟議文化の形成” という潜在的課題について触れる．

第1は誘致活動と地域活性化の関係についてである．地域活性化の意味づけは視点のとり方によって異なるとしても，〈希望学〉(東京大学社会科学研究所)の知見を借りて，次のように整理できるだろう．地域活性化とはローカル・アイデンティティの再構築の試みであり，地域の強み及び地域の個性を見直す活動である，と¹⁵．誘致活動を特需とみる視線から，上記のような意味の地域活性化は期待できないかも知れない．誘致活動やドラマ放映中の交流・集客のなかから，今後の地域のあり方を展望する創発的な活性化の可能性はあるだろうか¹⁶．

第2は，誘致活動が活発化した要因と考えられると上述したが，大河ドラマがとりあげる歴史人物の変化と係わる．かつて記号論研究者のウンベルト・エーコ(Umberto Eco)は，テレビというメディアの変化について，パレオTV(paleo television / 旧TV)からネオTV(neo television / 新TV)へという概念で説明したことがある．パレオTVとは，テレビは世界に向かって開かれた「窓」windowであり，視聴者に世界を知らせる媒体＝メディアとしてテレビの性格を捉える見解である．ネオTVとは，テレビは(世界への眼差しを喪失した)視聴者自身を映し出す「鏡」mirrorであり，視聴者の見たいものを提供する媒体＝メディアとしてテレビの性格を捉える見解である¹⁷．

大河ドラマは毎回番組の終わりに歴史の舞台となった地域の現在を紹介するコーナーがある．これは歴史案内であると同時に観光案内となっている．大河ドラマの歴史物語における史実とファンタジーの均衡を史実(事実)の側から担保するものであるが，史実不明の部分が大きい歴史人物をとりあげる大河ドラマはどうしてもファンタジーに傾くだろうと予想する．エーコは1980年代の論考でテレビが次第にパレオTVからネオTVへ変わりつつあることを指摘したわけだが，大河ドラマが描く歴史とは何か，大河ドラマの誘致活動が作品にどのような影響を与え，作品は視聴者にどのような影響を与えるのか考えさせられる．

第3は誘致活動における地域の民衆感情の動員と係わる．大河ドラマの誘致活動のように映像文化へのアクセスする活動に対して抵抗する人々はほとんどいない．大河ドラマの誘致活動はおおむね情報をリソースにしたコミュニケーションの活動であるので，誘致活動をする人々にとって相対的に敷

居が低い活動である。歴史の愛好家たちが個人や小さな集団で声をあげて誘致活動を開始することが可能である。同時に、大河ドラマは民衆感情を動員する装置でもあるので、政治家や官僚からの関心を呼び起こしやすい。

上述の3点から浮かび上がるのは、大河ドラマの誘致活動から垣間見える“地域における熟議文化の形成”という潜在的課題である。誘致活動では住民たちの地域に対する感情が表出される場面が少なくない。素朴な郷土愛であったり、歴史的人物への愛着であったり、地域の伝統に対する誇りであったり、表出の様式は様々であるが、“地域の人々を結びつけている”と民衆が考える、ある種の象徴・神話・信条体系と絡み合いながら地域の歴史が語られている事実は否定しがたい。

仮に大河ドラマの誘致活動が民衆の歴史に対する思いを地域内外伝える活動として成熟するならば、誘致活動を通して地域活性化の手がかりをつかむことは十分可能である。民衆から発案される内発的な熟議の文化というべきものを、地域が誘致活動を通して表現していくとき、誘致の成否より重要な成果が思いがけないかたちで産み出される可能性も考えられる。

6. おわりに

大河ドラマの誘致には憂慮すべき側面もある。ここでは3点ほど問題点を指摘しておきたい。

第1は、誘致活動の過熱というべき現象である。新聞記事によれば、大河ドラマの誘致主体によっては、「落選」というような表現を使っているところがある。また陳情(要望書の提出)を何回したか、集めた署名の多さなどが、誘致を試行する側にはかなり気になるようである。誘致の成功とされている事例が2001年以降の大河ドラマ17作品のうち5作品程度であるならば、そもそも誘致活動による採択の可能性はそれほど高くはないとみてよいのではないだろうか。

第2は、中期・長期的な地域活性化の実質的な展望についてである。誘致による特需的な雰囲気期待が集まり、今後大河ドラマの誘致を試行することで、採択の成否にかかわらず、地域活性化の見取り図が描かれていくのかどうか、というところは考えさせられる論点である。長い眼で地域を考える主体はいま地域社会のなかでどれくらい存在するのであるだろうか。

第3は、歴史認識をめぐる課題である。大河ドラマの歴史人物を通して、人々がどのような歴史観を感じ取るかは意外と重要である。少なくとも日本の社会は敗戦後日本国憲法を受け入れるまで、身分制的な秩序が強い社会だった。大河ドラマの世界観が、ネオTV的な視聴者に心地よいものを見たいという要望に沿った作品となっていくことは避けられないだろう。しかし、地域ゆかりの歴史人物を大河ドラマの枠で描く際、たとえ作品はエンターテインメントであるとしても、視聴者は“歴史とは何か”という問いとともにあるように思う。大河ドラマの誘致は、自らの歴史認識のあり方が身近なところにある課題だと知らせる役割を果たしている。

謝辞

本稿は2015年3月のスロヴェニア共和国・リュブリャナ大学日本学講座における講演「日本のまちづくり：映像作品と地域活性化」のために準備したノート（講義案のなかのtopicsの1つ）が出発点となっている。リュブリャナ大学訪問の際お世話になった関係の先生方・学生院生の方々のご厚情に感謝したい。

引用・参考文献

- 鈴木嘉一, 2011. 「大河ドラマの50年：放送文化の中の歴史ドラマ」中央公論新社.
 筒井隆志, 2013. コンテンツツーリズムの新たな方向性：地域活性化の手法として. 参議院事務局企画調整室「経済のプリズム」第110号, 10-24.
http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/keizai_prism/backnumber/h25pdf/201311002.pdf
 前田勇, 2003. 「21世紀の観光学－展望と課題－」学文社.
 水島久光・西兼志, 2008. 「窓あるいは鏡：ネオTV的日常生活批判」慶応義塾大学出版会.

(雑誌・特集)

- 「歴史研究」歴研（歴史研究会事務局），第632号，2015年6月，36-39.
 「歴史読本」新人物往来社[2013年1月～5月]，中経出版[2013年6月～12月]，KADOKAWA[2014年1月～2015年2月]（発行元の変更による），2013年1月～2015年2月の各号.
 「魚沼（いよのま）」上田史談会，29号（NHK大河ドラマ「天地人」放映記念特集号）2010年，129-137.
 「魚沼文化」魚沼文化の会，57号（文化短信 NHK大河ドラマ「天地人」放映記念行事（南魚沼市）2009年，57-58.

(新聞等一表・出典参照)

- 朝日新聞，毎日新聞，読売新聞，新潟日報，神戸新聞，大分合同新聞，西日本新聞，南日本新聞の各記事（@nifty新聞・雑誌記事横断検索を利用した）.
 中村麻美，麻美乃絵 http://maminoe.jp/index_tenchijin.html（「天地人」新聞連載データを掲載。中村氏は「天地人」新聞各紙連載の際の挿絵を担当された）.

(誘致主体HPなど)

- *誘致主体のHP作成状況は様々である。以下，表1，表3，表4の主な出典となるHPのURLを中心に掲載する。
 *凡例：[ST]誘致主体HP/[NA]誘致主体にHPなし/[INTR]誘致主体を紹介するHP/[RL]誘致主体関連HP/[ARTCL]誘致主体の活動に言及する新聞記事など。

表1

- [1] 明智光秀公顕彰会事務局 [ST] <http://akechimitsuhide.net/>

[2] 明智光秀ゆかりの地連絡協議会 [INTR] <http://www.sakamoto-jyoh.org/syomei4.pdf>

* (パンフレット) 光秀/ありのままの光秀を 一人でも多くの人に知ってもらいたい。/「光秀」を大河ドラマで
… 署名にご協力ください。

<http://www.sakamoto-jyoh.org/syomei1.pdf> / <http://www.sakamoto-jyoh.org/syomei2.pdf> /

<http://www.sakamoto-jyoh.org/syomei3.pdf> / <http://www.sakamoto-jyoh.org/syomei4.pdf>

*坂本城を考える会 [RL] <http://www.sakamoto-jyoh.org/> このサイトから上記協議会パンフレットへの直接リンク
は見当たらないが, google 検索ではアクセスが可能である。

[3] NHK大河ドラマ誘致推進協議会 [ST] <http://www.taiga-dorama.com/>

[4] 北条五代観光推進協議会事務局 [ST] <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko/hojo/>

[5] 津幡町大河ドラマ推進協議会 [ST] <http://kankou.town.tsubata.ishikawa.jp/campaign.php>

[6] 「義仲・巴」広域連携推進会議 – Facebook [INTR]

<https://www.facebook.com/義仲巴広域連携推進会議-415829728490879/>

*「木曾義仲・巴御前」ホームページをご紹介します!(富山県砺波市) [INTR]

https://www.city.tonami.toyama.jp/tonamisypher/www/info/detail.jsp?life_supergenre=1&id=8481

[7] NHK大河ドラマ「本多忠勝・忠朝」誘致実行委員会 [ST] <http://www.honda-tadakatsu.com/>

[8] 加藤清正公生誕450年・没後400年記念事業実行委員会 [ST] <http://www.kato-kiyomasa.com/>

[9] 『加藤清正公』ゆかりの地四地域連絡協議会 [NA]

*「清正の大河ドラマ実現を」ゆかりの4県の地元が協議会 /熊本県. 朝日新聞, 2014年09月27日朝刊(熊本).

[ARTCL]

[10] 加藤清正公を大河ドラマに愛知 – Facebook [ST]

<https://www.facebook.com/加藤清正公を大河ドラマに-愛知-627410330737204/>

[11] NHK大河ドラマ「藤堂高虎」を誘致する会 – Facebook [INTR]

<https://www.facebook.com/media/set/?set=a.328315287273288.66694.270217643083053&type=3>

* (社) 津市観光協会 - Facebook [RL] <https://www.facebook.com/tsukanko/>

*大河ドラマ誘致, NHKに請願へ「高虎を」津の有志ら /三重. 朝日新聞, 2002年11月19日朝刊(三重). [ARTCL]

[12] 名君保科正之公の大河ドラマをつくる会 [ST] <http://takato-inacity.jp/taiga-drama/>

[13] 『光圀伝』大河ドラマ推進協議会 – Facebook [ST] <https://www.facebook.com/mitukunidentaiga>

[14] 島津義弘公大河ドラマ化推進実行委員会 [NA]

*「島津義弘を大河ドラマに」地域おこしへ始良市民が推進委=鹿児島. 読売新聞, 2013年4月23日朝刊(西部).

[ARTCL]

[15] ジョン万次郎NHK大河ドラマ化実現高知県実行委員会 [ST] <http://www.cciweb.or.jp/tosashimizu/sign/>

[16] 里見氏大河ドラマ実行委員会 [ST] <http://satomishi.com/>

[17] NPO 法人大友氏顕彰会 [ST] <http://ootomoshi.net/>

*NHK大河ドラマ「大友宗麟」誘致推進協議会について記述がある。

- [18] 鹿児島県観光誘致促進協議会 [NA]
- [19] 伊能忠敬大河ドラマ化推進協議会 [ST] <http://taiga-ino.biz/>
- [20] NPO 法人宗春ロマン隊事務局「尾張七代藩主 徳川宗春公を NHK 大河ドラマに誘致する会」 [ST]
<http://muneharuroman.web.fc2.com/>
- [21] 安来市役所 広瀬地域センター『山中鹿介の大河ドラマ放映実現をめざす会』事務局[NA]
 *安来市役所 広瀬地域センター [RL] <http://www.city.yasugi.shimane.jp/busyo/hirose-c/>
 *大河ドラマ放映めざして「いざ」 安来「月山ウオーク」 / 島根県. 朝日新聞, 2009年10月14日朝刊(島根).
 [ARTCL]
- [22] NHK 大河ドラマ「日本一の兵 真田幸村公」放映実現を願う会[ST] <http://www.sanada-jinja.com/yukimura/>
- [23] 「塚原ト伝研究委員会」 [ST] <http://city.kashima.ibaraki.jp/info/detail.php?no=3482>
- [24] 三好長慶会 [ST] <http://www.miyoshichokeikai.net/index.html>
 *大河ドラマを実現する会について記述がある.
- [25] 長曾我部最高委員会 [ST] <http://chousokabe.com/saikou/iinkai.html>
- [26] 孫市の会 孫市まつり公式サイト ~雑賀孫市は和歌山の宝~ [ST] <http://magoichi.fc2web.com/>
- [27] 朝倉氏遺跡保存会 [ST] <http://www3.fctv.ne.jp/~asakura/>
- [28] 柳川フィルムコミッション事務局 [ST] <http://yanagawa-film.jp/>
- [29] ケイサキーの会[NA]
 *二宮敬作題材の大河ドラマを誘致活動[ARTCL] http://news.mamipro.com/top/news_details/68
- [30] 方谷さんを広める会 [ST] <http://yamadahoukoku.com/tag/方谷さんを広める会/>
- [31] 比企総合研究センター [ST] <http://www.hikisouken.jp/>
- 表 3
- [32] ANJIN プロジェクト (神奈川県横須賀市) [INTR] https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/0140/g_info/anjin-p.html
- [33] 薩摩藩英国留学生[NA]
 *薩摩藩留学生を「大河ドラマに」 / NHK に伊藤鹿児島県知事ら要請. 南日本新聞, 2013年9月7日朝刊. [ARTCL]
- [34] 太田道灌公を NHK 大河ドラマに! 推進準備実行委員会 [NA] *公式サイト開設準備中
 *第16回 太田道灌の集い ~大河ドラマ化に向けた取り組みも~ (神奈川県伊勢原市) [INTR]
<http://www.city.isehara.kanagawa.jp/docs/2015072400052/>
 *道灌, 大河ドラマへ出陣 めざせ2020年放送, 伊勢原市民が署名 / 神奈川県. 朝日新聞, 2015年2月4日朝刊
 (横浜). [ARTCL]
- [35] NHK 大河ドラマ『北で燃えたサムライ 村橋久成』を誘致する会 [NA]
 *(北の文化) 道内産業の礎築いた村橋久成 田中和夫 / 北海道. 朝日新聞, 2015年6月27日朝刊(北海道). [ARTCL]
- [36] 由利公正 (福井県) [INTR] <http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/brandeigyou/brand/taiga.html>
 *大河ドラマ誘致, 候補に由利公正 知事, 県議会で答弁 / 福井県. 朝日新聞, 2015年7月15日朝刊(福井) [ARTCL]

*大河誘致「残された時間少ない」 県議から厳しい声 /福井県. 朝日新聞, 2015年10月1日朝刊(福井) [ARTCL]

表4

[37] 播磨の黒田武士顕彰会 [ST] <http://harima-kurodabushi.com/>

[38] NHK大河ドラマ「日本一の兵 真田幸村公」放映実現を願う会 [ST] , [22] に同じ.

注

- ¹ 〈特集付録〉ドラマで地域活性化を狙う ふるさとの英雄再発掘 全国の大河ドラマ誘致活動, 歴史研究, 第632号, 2015年6月号, 36-39.
- ² 本稿は文献探索的な論考であり主題の素描に留まるが, 今後の研究調査のための記述として理解していただければ幸いである.
- ³ わが殿を大河ドラマに 東海でも誘致合戦 【名古屋】. 朝日新聞, 2012年3月26日夕刊.
- ⁴ 誘致活動の主体によるNHKへの陳情は地方紙や全国紙地方版の記事となる場合があり, 記事の文面から伝わってくる状況がやや過熱気味と思われる主体がある.
- ⁵ この項について, 現場から記者レポート: 北近江一豊・千代博覧会 博覧会後は普段の状況に/滋賀(毎日新聞2007年2月3日滋賀版), NHK大河ドラマ: 全国PR! 11年放映, 長浜市や商議所など誘致実る/滋賀(毎日新聞2009年6月19日滋賀版), 浅井三姉妹 ふるさとPR 湖北地域の観光協など イベント実行委設立(毎日新聞2009年8月28日朝刊等の記事を参照した. 滋賀県長浜市は大河ドラマ『功名が辻』の舞台となった. 2007年2月3日付の記事では「長浜観光協会も『お市と浅井三姉妹』をテーマにした大河ドラマ誘致の準備を開始するなど, 新たな戦略の検討を始めた」とあり, 2009年6月19日付の記事では「NHK大河ドラマで湖北地域が主舞台になったのは96年の「秀吉」, 06年の「功名が辻」で, 市や長浜観光協会は放映を機に秀吉博などの記念イベントを開催し観光キャンペーンを展開した. 放映とキャンペーンで観光客は前年に比べ激増した経緯があり, 「功名が辻」終了後の07年からは, 浅井三姉妹にターゲットを絞り, 三姉妹の漫画やリーフレット, 観光ポスターなどを作り, ドラマ製作誘致運動をしてきた。」と伝えられている. 誘致運動の詳細については文献資料で十分追跡できなかった. 今後の課題としなければならない.
- ⁶ 鈴木嘉一, 265-269.
- ⁷ NHKの方針の変化は, 地域からみると大河ドラマ歴史人物採扱の規制緩和に喩えることができよう.
- ⁸ 鈴木嘉一, 302.
- ⁹ したがって, 映像作品による地域活性化は短期的な効果が普通だと考えるべきで, 長期的な地域活性化のためには別の工夫が必要となるのである.
- ¹⁰ 鈴木嘉一, 311.
- ¹¹ 鈴木嘉一, 同上.
- ¹² この項の記述に関して, 魚沼29号(NHK大河ドラマ「天地人」放映記念特集号, 上田史談会, 2010)を参照した. また行政学研究室において, 〈天地人〉の誘致と新潟県における社会・経済効果について詳細な調査をしたゼミ生・宮村優花さんの卒業論文「メディアと地域活性化～大河ドラマは, 地域活性化の起爆剤になり得るか～」(2011年1月提出)から示唆を得た. 表6のまとめ方に関して卒業研究発表会(2011年1月29日実施)における彼女の発表用レジュメの工夫にアイデアを借りている.
- ¹³ 中村麻美, 麻美乃絵(中村麻美HP) http://maminoe.jp/index_tenchijin.html 中村麻美氏は「天地人」の新聞各紙連載の際, 挿画を担当された.
- ¹⁴ この項の記述に関して, 黒田官兵衛の「ゆかりの地」とされた地域の地方紙, すなわち神戸新聞, 大分合同新聞, 西日本新聞の各記事を参照した.
- ¹⁵ 東京大学社会科学研究所希望学プロジェクト「希望学とは」http://project.iss.u-tokyo.ac.jp/hope/hopology/hopology_09.html
- ¹⁶ 朝の連続テレビ小説(朝ドラ)でとりあげられるドラマの舞台が47都道府県一巡したことが伝えられたのは2008年6月であった(NHK「朝ドラ」, 80作目は埼玉 これまで全国一巡. 朝日新聞, 2008年6月17日. http://www.asahi.com/showbiz/tv_radio/TKY200806160328.html). 朝ドラの舞台は東京(大阪)と特定の地域(主人公の出身地)であることが多い. これに対して, 大河ドラマの舞台ははるかに広域で歴史人物の出身地と活動の地が複数の都道府県にまたがるが多く, 地域間の関係性を豊かに描く広域の視点の提供は大河ドラマならではの特徴と考えられる.
- ¹⁷ 水島久光・西兼志, 2008.

原稿提出日	2015年9月4日
修正原稿提出日	2015年11月12日